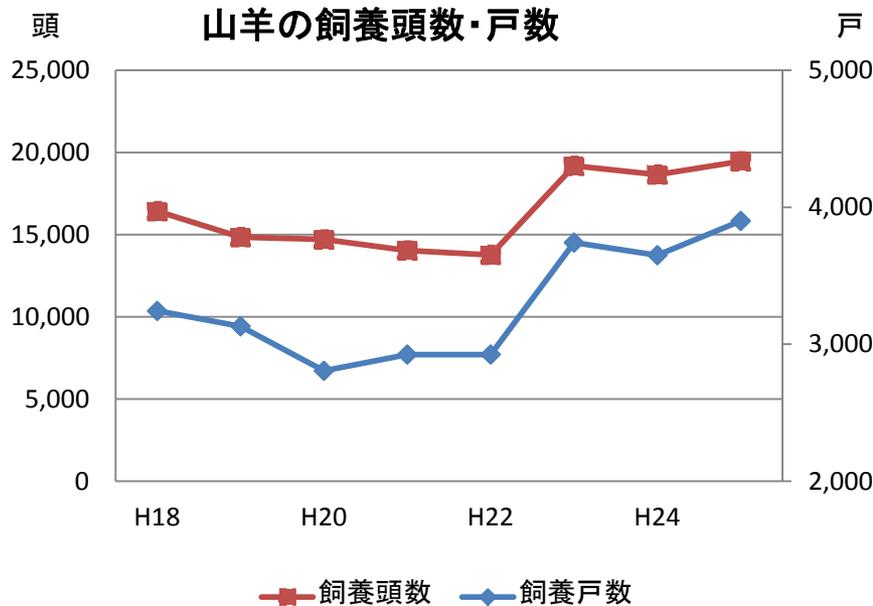


国内の山羊の飼養状況について

(1) 飼養頭数・戸数の推移

- 総飼養頭数1万9千頭程度、飼養戸数3900戸（H25）
- 飼養頭数、飼養戸数ともにほぼ横ばい
- 主に飼養されている品種は日本ザーネン種（乳用種）



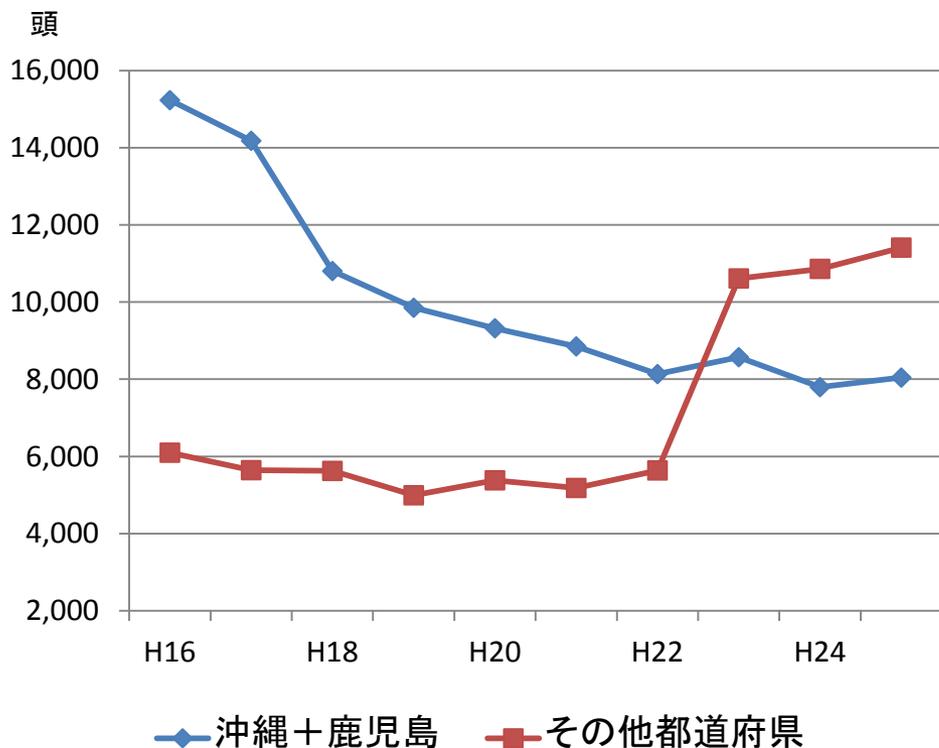
年次	飼養頭数	飼養戸数	1戸当たり頭数
平成18年	16,428	3,243	5.1
19	14,845	3,131	4.7
20	14,702	2,806	5.2
21	14,033	2,925	4.8
22	13,771	2,925	4.7
23	19,183	3,742	5.1
24	18,655	3,650	5.1
25	19,454	3,900	5.0

※(資料)H10~22年度は、(公社)中央畜産会「家畜改良関係資料」H23~25は動物衛生課「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」によるため、データの連続性はない。

(2) 地域別飼養頭数

- 飼養頭数は沖縄で最も多いが、沖縄・鹿児島は4割程度となっており、近年は減少傾向
- 沖縄、九州は肉用、その他の地域は乳用が主

沖縄・鹿児島とその他の都道府県の飼養頭数推移

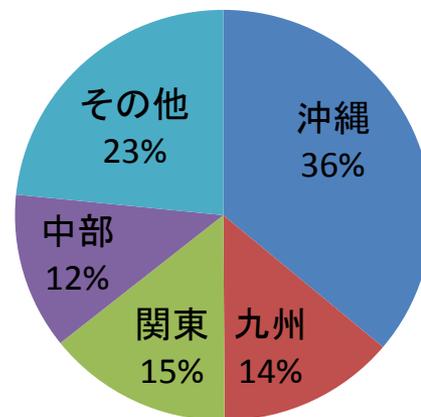


※(資料)H10~22年度は、(公社)中央畜産会「家畜改良関係資料」H23~25は動物衛生課「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」によるため、データの連続性はない。

山羊地域別飼養頭数(H25)

	地域	飼養頭数	割合
1	沖縄	7,019	36%
2	北海道	1,212	6%
3	鹿児島	748	5%
4	長野	630	4%
5	熊本	577	3%
総飼養頭数		19,454	

山羊の飼養頭数の地域別割合 (H25)

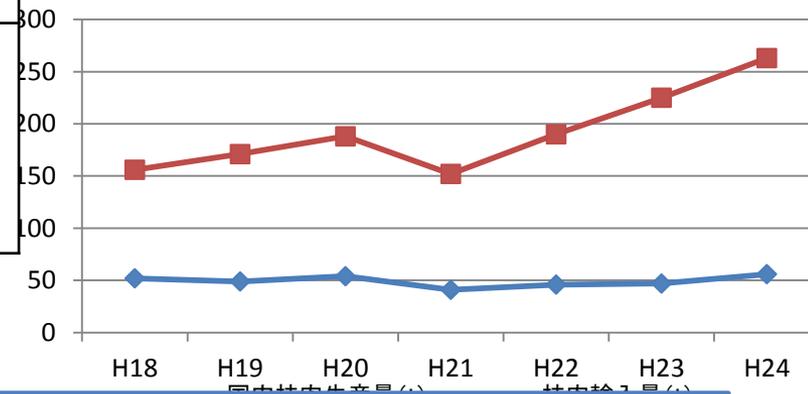


(3) 山羊の畜産物利用(乳・肉)について

- 国内枝肉生産量は、おおよそ50トン/年で、ほぼ横ばいで推移。沖縄料理での肉利用がほとんどであるが、一部フランス料理など的高级素材としての利用もみられる。
- 枝肉輸入量は増加傾向で推移しており、平成24年度で263トン、輸入先は100%オーストラリア。

	国内と畜頭数(頭)	国内枝肉生産量(t) (枝肉ベース) a	輸入量(t) (枝肉ベース) b	総量(t) a+b	国内産割合
平成18年	2,757	52	156	208	25%
平成19年	2,640	49	171	220	22%
平成20年	2,726	54	188	242	22%
平成21年	2,429	41	152	193	21%
平成22年	2,417	46	190	236	20%
平成23年	2,445	47	225	272	-17%
平成24年	2,993	56	263	319	18%

山羊肉の生産量と輸入量の推移

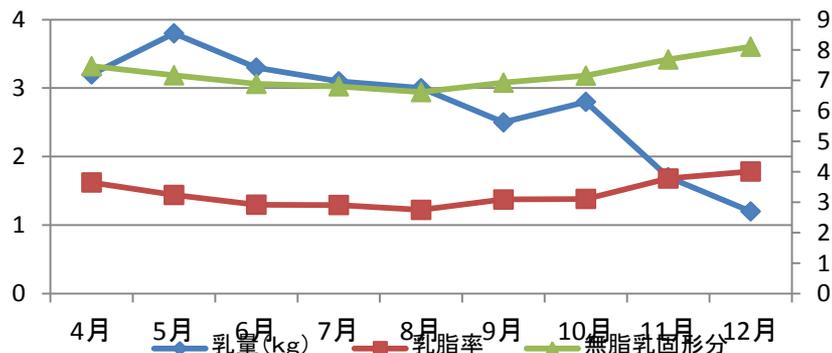


※: H18~H21年農林水産省「畜産物流通統計」

H22~24年「と畜頭数」: 厚生労働省「食肉検査等情報還元調査」、「国内枝肉生産量」: と畜頭数にH17~21年の過去5カ年の1頭あたり枝肉重量の平均値を乗じたもの

- 山羊乳と牛乳のアレルゲンの違いから飲用としても注目されている。また、チーズなどの加工品への利用もみられる。
- 殺菌山羊乳の成分規格が、乳脂肪分3.6 → 2.5%以上に、無脂固形分8 → 7.5%以上に変更されたことから今後、販売を開始する者が増えることが予想される。

泌乳期における山羊乳の乳量・乳成分の変動

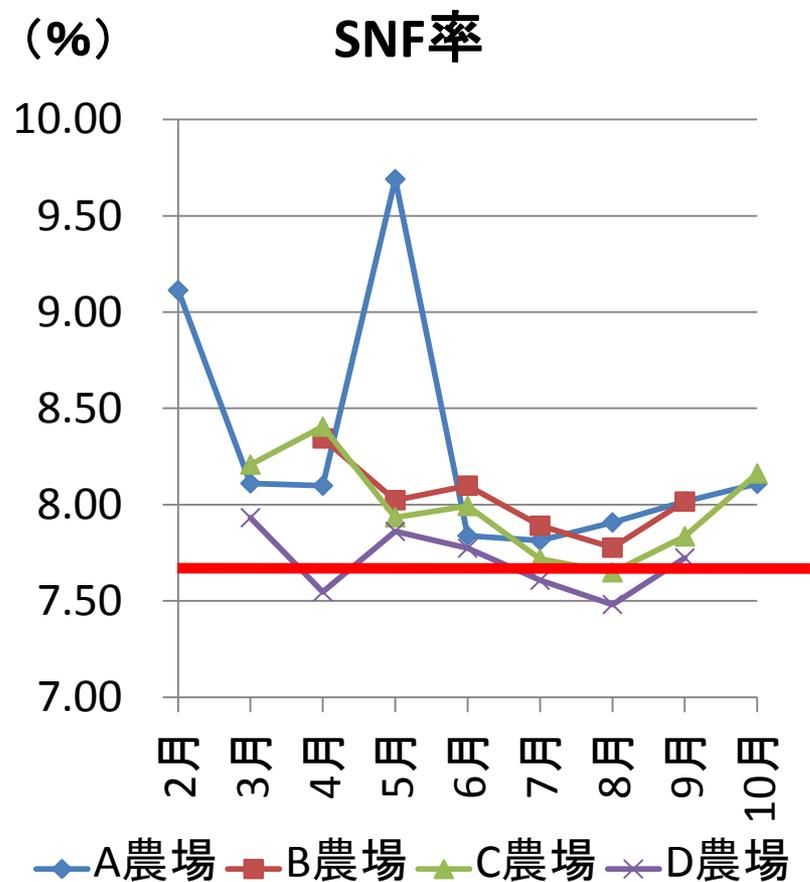
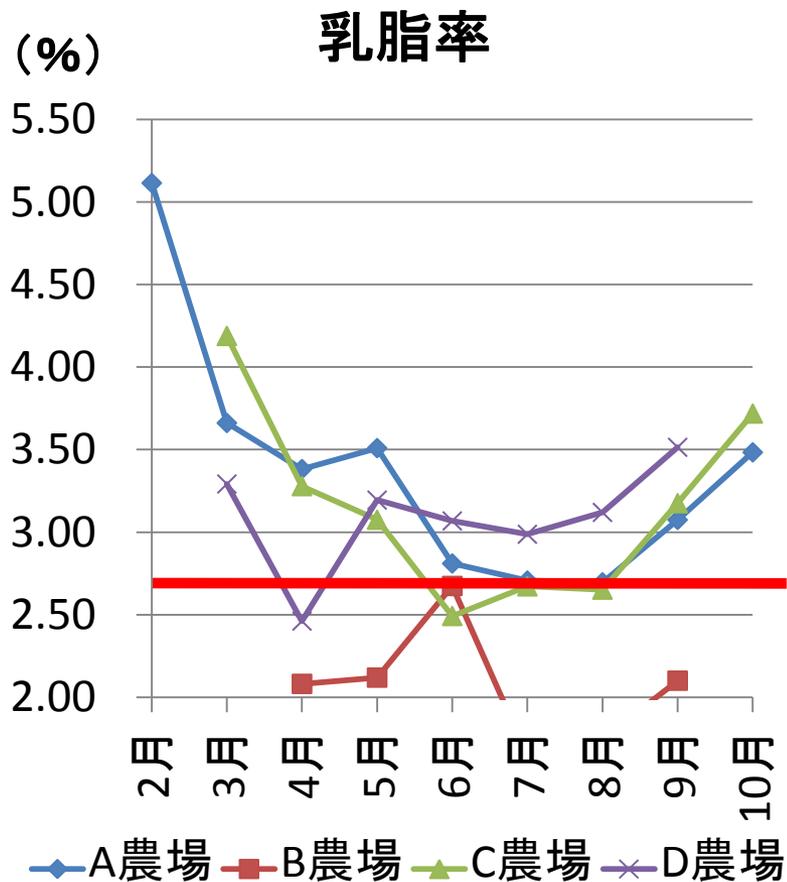


殺菌山羊乳の成分規格について

	現行	改正前
乳脂肪分	7.5%以上	8.0%以上
無脂乳固形分	2.5%以上	3.6%以上

成分規格の改正により殺菌山羊乳を販売しやすくなった。

(4) 泌乳期における山羊乳の乳量・乳成分の変動(民間農場)



(5) 泌乳期における山羊乳の乳量・乳成分の変動(民間農場)

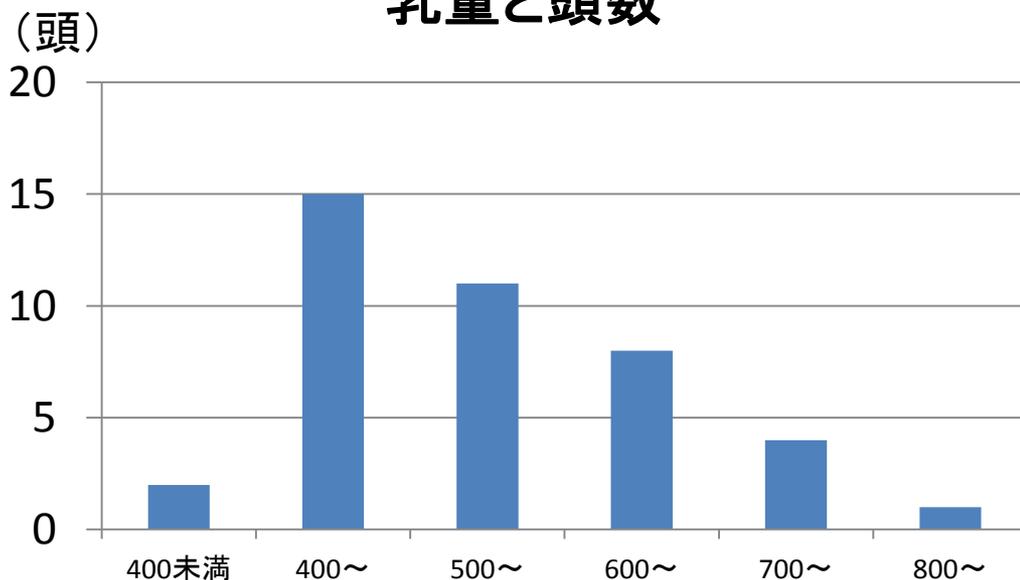
250日換算推定乳量の農家ごとの平均値(kg)

農場名	最大	最小	250日換算推定	3産次補正乳
ア牧場	802	425	527	704
イ牧場	710	259	489	571
ウ牧場	507	373	441	441
エ牧場	702	392	502	545
H26長野支場	904	337	665	743

* 長野支場のデータは240日換算

- ・ 農場ごとの能力差がある
- ・ 高泌乳能力な個体がいる
- ・ 改良の余地が大いにある

乳量と頭数



- ・ 400~500kgクラスの個体が半分以上である

(6) 子山羊市場の動向

当歳雌山羊

	長野県		群馬県		愛知県	
	出頭頭数 (頭)	平均価格 (円)	出頭頭数 (頭)	平均価格 (円)	出頭頭数 (頭)	平均価格 (円)
平成22年	37	55,000	10	36,900	3	34,000
平成23年	27	52,926	4	55,250	12	35,250
平成24年	38	60,237	16	37,063	13	26,556
平成25年	37	49,703	14	39,286	5	28,000
平成26年	43	49,628	13	47,769	10	39,900

当歳雄山羊

	長野県		群馬県		愛知県	
	出頭頭数 (頭)	平均価格 (円)	出頭頭数 (頭)	平均価格 (円)	出頭頭数 (頭)	平均価格 (円)
平成22年	10	50,000	8	22,000	8	22,000
平成23年	10	56,400	8	33,500	3	33,000
平成24年	13	33,462	7	31,375	1	33,000
平成25年	6	44,500	9	37,333	8	24,000
平成26年	7	58,429	17	33,000	13	25,000

(7) 河川敷の活用

河川敷活用事例

[茨城県の事例](#)

[群馬県の事例](#)

[埼玉県の事例](#)

[新潟県の事例](#)

[福井県の事例](#)

[福岡県の事例](#)

関連書籍

[畜産コンサルタント平成20年10月号](#)

制作
公益社団法人 中央畜産会

刈草提供情報一覧 (国土交通省河川環境課提供)

国土交通省 地方出先機関名	管理区間 都道府県名	刈草提供情報の掲載先のURL	補足情報等
北海道開発局	北海道	http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_jigyoku/gijyutu/karikusa.html	刈草は概ね年に1回「6月上旬から9月下旬」にかけて発生します。
東北地方整備局	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/karikusa.pdf	刈草は概ね年に2回「5月上旬から7月下旬」及び「9月上旬から10月下旬」にかけて発生します。
関東地方整備局	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨	http://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/river_shihon00000127.html	刈草は概ね年に2回「5月上旬から6月下旬」及び「7月中旬から9月中旬」にかけて発生します。
北陸地方整備局	福島、新潟、長野、富山、石川	http://www.hrr.mlit.go.jp/chikuma/oshirase/karikusa/iyosou_info.html	刈草は概ね年に2回「5月上旬から6月中旬」及び「8月下旬から9月下旬」にかけて発生します。
中部地方整備局	岐阜、静岡、愛知、三重、長野	http://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/musyouteikyou/index.htm	刈草は概ね年2回、6月頃から11月頃にかけて発生します。(発生する時期は河川によって異なります)
近畿地方整備局	福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	http://www.kkr.mlit.go.jp/river/kanri/karikusa_batsuboku.html	刈草は概ね年2回、5月頃から11月頃にかけて発生します。(発生する時期は河川によって異なります)
中国地方整備局	鳥取、島根、岡山、広島、山口	http://www.cgr.mlit.go.jp/cginfo/syokai/busyo/kasen/karikusa.htm	刈草は概ね年に2回「5月上旬から6月下旬」及び「7月中旬から9月中旬」にかけて発生します。
四国地方整備局	徳島、香川、愛媛、高知	http://www.skr.mlit.go.jp/kasen/karikusa/index.html	刈草は概ね年に2回「5月上旬から8月中旬」及び「9月上旬から12月
九州地方整備局	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	http://www.qsr.mlit.go.jp	

川の種類

河川管理者

一級河川

国土交通省

二級河川

都道府県

準用河川

市町村長

普通河川

市町村長